

日本・アジア／米国間コンテナ貨物の荷動き動向について

(2016年6月〔往航〕速報値)

(公財) 日本海事センター 企画研究部

* 文中の%は、寄与度とシェア以外で特に記載がない場合は、対前年同期比を表します。

I. 往航（アジア 18ヶ国・地域→米国）の荷動き

- (1) 2016年6月のアジア（18ヶ国・地域）から米国へのコンテナ荷動き量は、2ヶ月連続の増加となる2.3%増の133.8万TEU。4-6月の四半期別では、2四半期ぶりの減少となる0.3%減の383.2万TEUとなったものの、上半期1-6月の累計は3.1%増の742.9万TEUと昨年実績を上回っている。昨年の西岸港湾のスローダウンの影響がなくなった5-6月の荷動き量を比較すると前年同期比1.3%増となっており、足下の勢いを反映していると思われる。
- (2) 国別では、日本（15.7%増）、韓国（15.3%増）、中国（0.7%増）、ベトナム（11.1%増）、インド（5.7%増）などの主要国が増加となった。地域別では、ASEAN（8.0%増）、南アジア（4.4%増）は増加。
- (3) 日本は、1位（2015年の年計ベースの各国・地域の品目別順位、以下同様）の「自動車部品」（19.6%増）及び2位の「車両機器及び部品」（12.2%増）が3ヶ月ぶりの増加、4位の「建設機械」（36.6%増）が6ヶ月連続の増加となったことなどにより、3ヶ月ぶりの増加となる15.7%増の6.0万TEU。
- (4) 最大の出荷国である中国は、2位の「繊維及びその製品」（1.8%減）が2ヶ月連続の減少、3位の「一般電気機器」（7.0%減）が4ヶ月連続の減少となったものの、1位の「家具及び家財道具」（6.5%増）及び「床材・ブラインド等のプラスチック製品」（1.4%増）が3ヶ月連続の増加となったことなどにより、微増ながら2ヶ月ぶりの増加となる0.7%増の86.0万TEU。香港は4ヶ月連続の減少となる2.6万TEU（18.5%減）。
- (5) 韓国は、1位の「自動車部品」（7.7%増）、2位の「一般電気機器」（9.5%増）及び3位の「タイヤ及びチューブ」（14.4%増）が3ヶ月ぶりの増加となったことなどにより、3ヶ月ぶりの増加となる7.2万TEU（15.3%増）。
- (6) 台湾は、1位の「建築用具及び関連品」（13.0%減）が4ヶ月連続の減少、2位の「自動車部品」（9.5%減）、3位の「家具及び家財道具」（10.8%減）及び4位の「床材・ブラインド等のプラスチック製品」（11.8%減）が2ヶ月ぶりの減少となったことなどにより2ヶ月ぶりの減少となる5.1万TEU（9.1%減）。
- (7) ASEANは、マレーシア（11.7%増）、タイ（14.4%増）、ベトナム（11.1%増）などが増加となったことにより、全体では2ヶ月連続の増加となる19.8万TEU（8.0%増）。ASEAN最大の出荷国であるベトナムは、1位の「家具及び家財道具」（17.3%増）が3ヶ月連続の増加、3位の「履物及び附属品」（7.8%増）及び4位の「魚及びその調整品」（35.7%増）が2ヶ月連続の増加となったことなどにより、3ヶ月連続の増加となる7.9万TEU（11.1%増）。
- (8) 南アジアは、すべての国が増加となったことにより、全体では2ヶ月連続の増加となる7.0万TEU（4.4%増）。南アジア地域最大の出荷国であるインドは、1位の「繊維及びその製品」（18.5%増）、3位の「セメント、石、砂、粘土等」（2.9%増）などが2ヶ月連続の増加となったことなどにより、2ヶ月連続の増加となる5.0万TEU（5.7%増）。
- (9) 品目別では、「家具及び家財道具」（寄与度0.9%増）、「コンピュータ及び半導体」（同0.4%増）、「タイヤ及びチューブ」（同0.2%増）などが増加。
- (10) 船社別では、1位（2015年の年計ベースの船社別順位、以下同様）のEVERGREENが4ヶ月ぶりの増加となる14.1万TEU（7.8%増）、2位のMAERSKが2ヶ月連続の増加となる12.4万TEU（5.2%増）、3位のCMA-CGMが4ヶ月ぶりの増加となる10.2万TEU（5.6%

増)。日本船社では K LINE が 4 ヶ月ぶりの増加となる 8.8 万 TEU (9.7%増)、NYK が 4 ヶ月連続の減少となる 5.5 万 TEU (12.3%減)、MOL が 2 ヶ月連続の増加となる 6.0 万 TEU (3.6%増)。

表－1 2016 年 6 月：積国・地域別荷動き

国・地域	往 航				
	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	シェア (%)	1-6 月の 累計(TEU)	前年同期比 (%)
18ヶ国・地域 合計	1,337,696	2.3	100.0	7,429,259	3.1
日 本	59,535	15.7	4.5	318,588	4.7
韓 国	71,508	15.3	5.3	400,206	6.6
台 湾	51,196	▲9.1	3.8	309,603	▲0.6
中国+香港 計	886,612	▲0.03	66.3	4,893,061	1.9
中 国	860,429	0.7	64.3	4,748,240	2.4
香 港	26,183	▲18.5	2.0	144,821	▲11.8
マカオ	23	35.3	0.0	169	42.3
ASEAN 計	198,405	8.0	14.8	1,100,445	9.1
シンガポール	8,914	8.9	0.7	51,087	1.6
フィリピン	10,979	▲2.4	0.8	65,416	1.8
マレーシア	25,080	11.7	1.9	142,948	11.6
インドネシア	30,690	▲3.8	2.3	181,376	0.1
タ イ	39,795	14.4	3.0	211,745	10.9
ベトナム	79,365	11.1	5.9	424,501	14.5
カンボジア	3,346	▲8.8	0.3	21,620	▲1.4
ミャンマー	236	87.8	0.0	1,751	100.2
南アジア 計	70,416	4.4	5.3	407,187	1.6
スリランカ	3,616	1.5	0.3	21,025	▲1.8
バングラデシュ	7,996	0.6	0.6	48,640	4.4
パキスタン	8,925	1.6	0.7	47,857	▲2.1
イ ン ド	49,879	5.7	3.7	289,665	2.0

(注) 集計対象は、日本、韓国、台湾、中国、香港、マカオの他、ASEAN のうちシンガポール、フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの 8 ヶ国、南アジアではインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュの 4 ヶ国、合計 18 ヶ国・地域を対象としている。また、速報値ベースでの発表のため、後に若干の修正が加わる場合がある。

II. 往航の品目別荷動き

- (1) 往航荷動き量を品目別にみると、荷動きを牽引している住宅関連 3 品目（「家具及び家財道具」、「建築用具及びその関連品」、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」）の合計荷動き量は、2 ヶ月連続の増加となる 28.1 万 TEU（3.9%増）。品目別でみると、「家具及び家財道具」は 2 ヶ月連続の増加となる 18.9 万 TEU（6.3%増）。「建築用具及びその関連品」は 4 ヶ月連続の減少となる 3.7 万 TEU（1.6%減）、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」は 3 ヶ月ぶりの減少となる 5.6 万 TEU（0.01%減）。
- (2) 「繊維及びその製品」は 4 ヶ月連続の減少となる 14.9 万 TEU（1.1%減）。
- (3) 「一般電気機器」は 4 ヶ月連続の減少となる 9.3 万 TEU（5.6%減）、「テレビ・ビデオ等の映像・音響製品」は 2 ヶ月連続の増加となる 3.6 万 TEU（2.9%増）。
- (4) 「自動車部品」は 4 ヶ月ぶりの増加となる 5.3 万 TEU（2.4%増）、「タイヤ及びチューブ」は 3 ヶ月ぶりの増加となる 4.3 万 TEU（6.8%増）と自動車関連品目が復調。

表-2 往航:2016年6月の品目別荷動き(上位10品目)

品目名	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	寄与度 (%)	シェア (%)
1. 家具及び家財道具	188,962	6.3	0.9	14.1
2. 繊維及びその製品	148,754	▲1.1	▲0.1	11.1
3. 一般電気機器	92,784	▲5.6	▲0.4	6.9
4. 床材・ブラインド等のプラスチック製品	55,540	▲0.01	0.0	4.2
5. 自動車部品	53,290	2.4	0.1	4.0
6. 履物及び附属品	42,989	▲4.2	▲0.1	3.2
7. タイヤ及びチューブ	42,583	6.8	0.2	3.2
8. おもちゃ	39,569	▲5.1	▲0.2	3.0
9. コンピュータ及び半導体	36,846	18.9	0.4	2.8
10. 建築用具及び関連品	36,630	▲1.6	0.0	2.7

Ⅲ. コンテナ運賃の動向

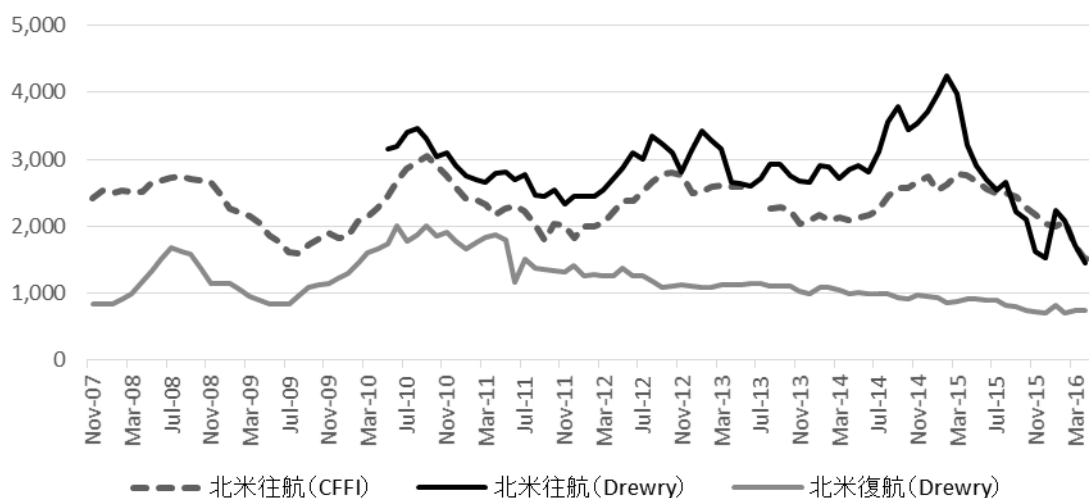
(1) 北米往航：

運賃は 2016 年 5 月の中国（塩田）-ニューヨーク間の運賃は 11.6%上昇し 1630 ドル/TEU。

(2) 北米復航：

2016 年のニューヨーク-中国（塩田）間の運賃は 2 月以降 750 ドル/TEU 前後で推移。

図-1 北米航路における運賃指数の推移（単位：ドル/TEU）



参考資料

表-3 米国内地域別(西岸/東岸/ガルフ)荷動きの構成比の推移

米国内地域 集計年(月)	往 航			復 航		
	西岸揚 (%)	東岸揚 (%)	ガルフ揚 (%)	西岸積 (%)	東岸積 (%)	ガルフ積 (%)
2012年	69.9	28.0	2.1	65.3	32.0	2.7
2013年	69.6	28.3	2.1	64.8	32.4	2.8
2014年	68.4	29.3	2.3	62.7	34.0	3.3
2014年1月	70.7	27.4	1.9	63.7	33.2	3.1
2月	65.8	31.7	2.4	64.6	32.4	3.0
3月	69.3	28.4	2.3	64.5	32.6	2.9
4月	70.4	27.4	2.3	64.8	32.5	2.7
5月	68.7	29.0	2.2	64.2	32.7	3.1
6月	70.7	27.3	2.1	62.8	33.8	3.4
7月	67.5	30.1	2.4	61.2	35.3	3.5
8月	68.0	29.6	2.4	64.0	32.6	3.4
9月	68.4	29.3	2.3	61.1	35.3	3.6
10月	67.1	30.5	2.4	61.7	35.1	3.3
11月	67.4	30.4	2.2	58.2	38.2	3.6
12月	65.9	31.7	2.4	59.7	36.6	3.7
2015年1月	60.1	36.2	3.7	53.0	42.0	5.0
2月	60.8	35.9	3.3	58.5	37.1	4.3
3月	65.6	32.0	2.5	56.9	38.6	4.5
4月	65.2	31.5	3.3	58.3	37.6	4.1
5月	65.1	31.9	3.0	60.1	35.5	4.5
6月	64.8	32.8	2.4	58.0	38.6	3.4
7月	64.0	33.3	2.7	60.9	35.3	3.8
8月	67.1	30.5	2.4	63.1	33.7	3.3
9月	64.9	32.5	2.7	57.9	38.1	4.0
10月	64.3	33.3	2.4	60.6	36.1	3.4
11月	66.8	30.8	2.3	59.0	37.5	3.5
12月	64.7	32.1	3.2	59.3	36.2	4.5
2016年1月	65.8	31.4	2.7	56.9	38.9	4.2
2月	64.1	33.0	2.9	59.8	35.9	4.3
3月	60.9	36.2	2.9	60.3	35.4	4.4
4月	65.6	31.5	2.9	60.7	35.4	4.0
5月	65.8	31.6	2.6			
6月	64.9	31.9	3.2			

表-4 船社別輸送量シェア(%)

順位	往航船社名	2013年	2014年	2015年	2016年1-6月	最近の推移
1	EVERGREEN	9.66	10.23	10.42	10.15	4ヶ月ぶりの増加
2	MAERSK	10.50	10.03	8.79	9.29	2ヶ月連続の増加
3	CMA-CGM	6.60	6.41	7.73	7.83	4ヶ月ぶりの増加
4	HANJIN	8.12	7.62	7.37	7.03	4ヶ月ぶりの増加
5	MSC	6.28	6.53	6.74	7.41	3ヶ月連続の増加
6	COSCO(N)	6.75	6.58	6.64	6.98	2ヶ月連続の増加
7	APL/NOL	7.55	7.00	5.79	5.84	2ヶ月ぶりの減少
8	K LINE	5.56	5.57	5.77	5.74	4ヶ月ぶりの増加
9	YANG MING	4.97	5.01	5.21	5.05	3ヶ月ぶりの減少
10	OOCL	4.46	4.72	4.72	5.02	3ヶ月連続の増加
11	NYK	4.25	4.57	4.61	4.44	4ヶ月連続の減少
12	CHINA SHIPPING	4.89	4.38	4.57	3.42	4ヶ月連続の減少
13	MOL	4.52	4.59	4.50	4.42	2ヶ月連続の増加
14	HYUNDAI	5.76	5.23	4.50	4.20	4ヶ月連続の減少
15	HAPAG-LLOYD	3.82	4.42	4.12	4.37	3ヶ月連続の増加
	OTHERS	6.30	7.12	8.51	8.80	3ヶ月連続の増加
	TOTAL	100.00	100.00	100.00	100.00	

(注)：単位は%。順位は2015年を基準とした。

